

行事予定

2021(令和3)年9月~12月

【特別展/企画展】

2021年9月1日(水)~11月4日(木)

2021年度特別展I

「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」

【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室

2021年11月8日(月)~12月20日(月)

2021年度特別展II

「宣教師とキリシタン—霊性と聖像のかたちを辿って—」

【場所】西南学院大学博物館1階常設展示室・特別展示室

西南学院史資料センター1階企画展示室

2021年10月29日(土)~2022年1月7日(金)

2021年度博物館実習成果展

【場所】西南学院大学博物館1階常設展示室

【休館】

毎週日曜日

キリスト降誕祭 [12/25]

年末・年始 [12/28 ~ 1/5]

新型コロナウイルスの影響により、行事予定は日程、内容等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

編集後記

当館のマスコットキャラクターのジョージくんをご存じでしょうか? 学生スタッフにより生み出された彼は、展示室やワークショップ、ミュージアムグッズやSNSなどで活躍してくれています。ミュージアムキャラクターアワード2021にも参戦したのですが、果たして結果はどうなったのでしょうか。このニュースが刊行される頃に発表のようです。

学芸研究員 山尾 彩香

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室

URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇 [8/10~8/16]、キリスト降誕祭 [12/25]、年末・年始 [12/28~1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[Facebook](https://www.facebook.com/seinamuseum) seinamuseum [Twitter](https://twitter.com/seinan_museum) @seinan_museum [Instagram](https://www.instagram.com/seinan_museum) @seinan_museum

来館者掲示板

【来館者の言葉】

ユダヤ教についてはこのような展示をされているところが他になく初めてじっくりと拝見できて良かったです。子供用の旧約聖書を幼いころ読んだのですが、50年経ってようやく実物とその時の文字や言葉が一致しました。(2021年 4月)

植物に関しても書いてあり、非常に興味深い内容であった。リンゴについて詳しく書いてあるものに出会ったのが初めてで、今後の学習のモチベーションがより上がった。(2021年 6月)

出エジプト記や申命記に出てくる様々な祝祭に使用される品を見ることができて、嬉しかったです。これからは具体的に思い浮かべながら聖書を読むことができます! (2021年 7月)



当館では、4月から8月にかけて企画展「ジュダイカ・コレクション：ユダヤ教の祝祭」を開催いたしました。普段目にする機会が少ないユダヤ教の祭具の数々に、感嘆のお声を多数頂きました。ご来館の皆様におかれましては、緊急事態宣言中の臨時休館に伴う事前予約制度など、新たな取り組みへのご協力ありがとうございました。9月1日からは、特別展「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」の開催を予定しております。皆様のご来館を、心よりお待ちしております。

学芸調査員 早田 萌

アクセスマップ ACCESS MAP



福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分

博多駅バスセンター → 修験館前 → 約35分
天神 → 修験館前 → 約20分
※修験館前バス停から徒歩5分

福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 43 2021.9

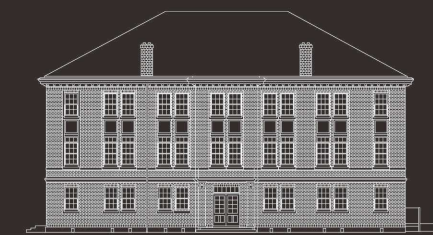
西南学院大学

所蔵品紹介 【関谷定夫コレクション】スパイス・タワー(香料用容器)

資料でみる西南学院の歴史⑦ 大学チャペル

博物館通信 「ジュダイカ・コレクション:ユダヤ教の祝祭」を開催 ほか

展覧会紹介 2021年度特別展「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」



所蔵品紹介 特集

【関谷定夫コレクション】

スパイス・タワー(香料用容器)

Spice Tower

左：フィラデルフィア(アメリカ) / 銀製 / 高さ17.5×直径5.2cm

中央：東欧 / 銀製 / 高さ19.0×直径5.7cm

右：ベツァレル美術学校(イスラエル) / 木製 / 高さ19.0×直径4.8cm
(関谷定夫氏寄贈)



本資料は、ユダヤ教徒によって行われる安息日(Shabbat)を見送るための「別れの儀式(Havdalah)」で用いられる香料用の容器です。装飾が施された塔の形をしたものが一般的ですが、容器の形に制約はなく、花や果物の形をしたものもあります。今回紹介する三つの香料用容器も、それぞれ塔の形をしたものです。

写真左は、本学神学部名誉教授の関谷定夫氏がアメリカのフィラデルフィアで購入した銀製の塔形容器です。香料の収納部分には透かし彫りなどの装飾が施されています。収納部分正面中央には非常に小さな小窓が付いており、そこから香料を中に入れていたようです。収納部分下部には、エルサレムにある「R Israel」・「Museum」という文字が刻まれています。

写真中央は、東欧で購入したとされる銀製の塔形容器です。この容器にも香料の収納部分を中心に装飾が施されており、特に透かし彫りや細線細工を組み合わせた非常に繊細な彫金装飾が特徴的です。収納部分正面中央には、同様に小さな小窓が付いており、そこから香料を中に入れて使用したようです。

写真右は、イスラエルのベツァレル美術学校で購入したとされる木製の塔形容器です。この容器は、蓋を取り上から香料を内部に入れる作りとなっています。また、ヘブライ語の文言が容器を一周するように記されており、中央にはエルサレムと思われる風景の絵が描かれています。現在も、この容器の中には乾燥した細長い香草が入ったままの状態です。

これらの香料用容器は、安息日における「別れの儀式」で用いられます。この儀式は「聖なる日」と「俗なる平日」の隔てを強調して唱える祝福の祈りと儀式のことを指します(吉見崇一1997『ユダヤ教小辞典』、リト:137頁)。儀式の際、二本の芯を擦り合わせた専用の蠟燭に火を灯して香料の芳香を嗅ぎ、祝福の祈りを唱えることで、安息日の喜びを想起し次の一週間への心構えを行います(山尾彩香編2021『ジュダイカ・コレクション ユダヤ教の祝祭』、西南学院大学博物館:16頁)。

また、別れの儀式が行われる安息日とは、『旧約聖書』にある「創世記」の冒頭で神が世界創造後の第七日目に休んだこと、そして「出エジプト」の故事を記念する祭日のことです。聖書を基にした様々な祝祭の中で、現在もユダヤ教徒の間で使用されている道具は多く、スパイス・タワーはその一例です。

このように、西南学院大学博物館では、関谷定夫氏が収集・寄贈した多くのユダヤ教関連資料を収蔵・展示しています。日本であまり馴染みのないユダヤ教やその特有の文化について、実物を通して考える機会になれば幸いです。

学芸調査員 山本 恵梨



大学チャペル

1954年に献堂されたランキン・チャペルは、半世紀以上にわたり西南学院大学の講堂、礼拝の場として親しまれながらも老朽化により2006年に解体されます。そして2007年、ランキン・チャペルの跡地、大学1号館の西側に新チャペルは献堂されました。

新たなチャペルの建設を担ったのは、西南学院旧本館・講堂（現大学博物館）を設計した建築家W.M.ヴォーリズ（1880-1964）により創立された一粒社ヴォーリズ建築事務所です。学院のシンボルともされる博物館の赤レンガ建築は、新チャペルの意匠にも引き継がれました。学院の伝統を赤レンガで示しながらも、楕円形に展開する鉄筋とガラスのモダンな建造は、キャンパスの新たなシンボルとなりました。

■外観：赤レンガとピンコロ石

チャペル外装の赤レンガは、博物館のレンガの質感や色合いを意識し制作されています。窯の焼成温度を低く設定し色調の赤みを増したり、火の状態をあえて不安定にして当時の窯の状態に近付けることでくすぶり感や自然な色ムラを出したり、成型の工程でレンガの形を手作業で崩すなど、制作過程で様々な工夫がなされました。レンガは熟練の職人によって手作業で「イギリス積み」に積み、独特の美しいゆらぎが生み出されました。

チャペルの前面には円形階段がピンコロ石（御影石）によって展開されています。この円形階段のユニークなところは、一部がなだらかな坂の広場となっている点です。ピンコロ石を位相幾何学的に配置することで、複雑で滑らかな曲面のスロープを実現しています。

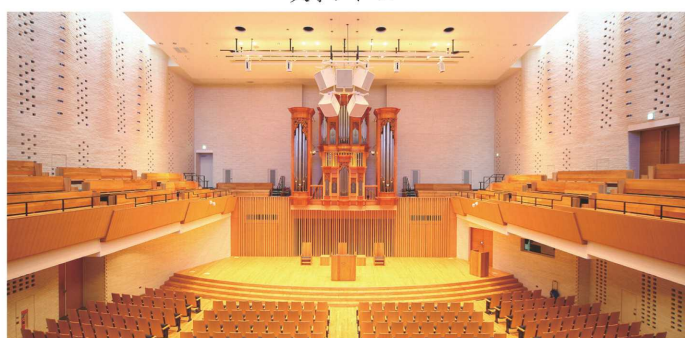
■内部空間：ステンドグラスと白レンガ

チャペルの内部、後方上部には青のステンドグラスが静謐に輝いています。ステンドグラスから差し込むブルーの光や両サイドのトップライトからもたらされる外光は、美しいウェーブを描くチャペルの白壁を洗います。この白壁はフルハンドメイドの白レンガが、職人の粋を集めて波型に積み重ねたものです。波型のレンガ壁は、高い音響効果をもたらし、またロマネスクの修道院を思わせるような象徴的な空間を演出します。白レンガの間には、ステンドグラスと同様に青を基調としたガラスブロックが埋め込まれており、チャペルに満ちる光の輝きをより印象づけてくれます。

学芸研究員 山尾 彩香



大学チャペル



チャペル内部



ピンコロ石の階段広場



赤レンガ(外装)



波型の白レンガ壁



ステンドグラス



壁のガラスブロック

展覧会紹介

次回開催

2021年度西南学院大学博物館特別展 I

長崎口と和華蘭文化 —異文化のさざ波—

会期/2021年9月1日(水)~11月4日(木)

会場/西南学院大学博物館 1階特別展示室

主催/西南学院大学博物館

西彼杆半島と長崎半島の交差点に形成された港町・長崎は、1571(元亀2)年の開港からおよそ300年ものあいだ、日本史上において重要な地位を占めていました。近世にはオランダや中国との唯一の貿易の場となり、その中心である出島と唐人屋敷は、文化流入の最前線となったのです。異文化のさざ波に洗われた長崎は、人々の営みのなかに異文化を受容する土壌を培い、「和華蘭文化」と呼ばれる独自の文化を花開かせることとなりました。

アンケートプレゼント

特別展アンケートにご回答いただいた方に、オリジナル箔押しファイルをプレゼント！

常設ワークショップ

出島の出入許可証を書いてみよう！



博物館通信

2021年5月から8月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、2021年4月から8月にかけて、企画展「ユダヤイカ・コレクション：ユダヤ教の祝祭」を開催しました。会期中、緊急事態宣言発令により、5月12日(水)から6月20日(日)まで臨時休館、その後7月13日(水)まで事前予約による入場制限を行い、それに伴って会期が延長となりました。本展覧会に足を運ばれた皆様から、ユダヤの文化に触れ、新たな発見を得た喜びの声が多数ございました。ユダヤの遊びに触れる体験コーナーでは、多くの方に楽しんでいただけたようでした。

学芸調査員 相江 なぎさ



2021年3月1日(月)~12月27日(月)
常設展示室テーマ展示「聖書の写本と印刷本」を開催中です。

2021年3月3日(水)~5月31日(月)
図書館サテライト展示
「ユダヤ教の祝祭—聖書と祝祭の関係—」を開催しました。

2021年4月17日(土)~8月27日(金)
2021年度企画展I
「ユダヤイカ・コレクション：ユダヤ教の祝祭」を開催しました。

2021年4月17日(土)~8月27日(金)
テーマ展示「古写真で見る西南学院」を開催しました。

2021年4月19日(月)~9月上旬
官学連帯サテライト展示
令和3年度南島原市×西南学院大学博物館相互貸借展示I
「輸出入禁止!はく製・標本展 一口之津と海外交流—」
を開催しました。

2021年9月1日(水)~11月4日(木)
2021年度特別展I
「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」を開催中です。